

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
神学部	—	夜・通信	16			16	13	
文学部	文化歴史学科	夜・通信						
	総合心理科学科	夜・通信						
	文学言語学科	夜・通信						
社会学部	社会学科	夜・通信						
法学部	法律学科	夜・通信						
	政治学科	夜・通信						
経済学部	—	夜・通信						
商学部	—	夜・通信						
理工学部	物理学科	夜・通信						
	化学科	夜・通信						
	生命科学科	夜・通信						
	情報科学科	夜・通信						

	数理科学科	夜・通信						
	人間システム工学科	夜・通信						
	先進エネルギーナノ工学科	夜・通信						
	環境・応用化学科	夜・通信						
	生命医化学科	夜・通信						
総合政策学部	総合政策学科	夜・通信						
	メディア情報学科	夜・通信						
	国際政策学科	夜・通信						
	都市政策学科	夜・通信						
人間福祉学部	社会福祉学科	夜・通信						
	社会起業学科	夜・通信						
	人間科学科	夜・通信						
教育学部	教育学科	夜・通信						
国際学部	国際学科	夜・通信						
理学部	数理科学科	夜・通信						
	物理・宇宙学科	夜・通信						
	化学科	夜・通信						
工学部	物質工学課程	夜・通信						
	電気電子応用工学課程	夜・通信						
	情報工学課程	夜・通信						
	知能・機械工学課程	夜・通信						

生命環境学部	生物科学科	夜・通信						
	生命医科学科	夜・通信						
	環境応用化学科	夜・通信						
建築学部	建築学科	夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kwansei.ac.jp/news/detail/4964>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://ef.kwansei.ac.jp/disclosure 上記ページの「学校法人関西学院 役員等名簿」にて公表

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社顧問（前職）	2022年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（現職）	2022年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（現職）	2022年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社顧問（現職）	2022年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	地方公共団体顧問 （前職）	2022年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
非常勤	会社役員（前職）	2023年4月1日～ 2025年3月31日	組織運営体制への チェック機能
（備考）			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人 関西学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
・前年11月頃から授業担当者にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力をつかり易く伝えるための書き方が記載された「シラバス作成の手引き」を全学的に配布している。 ・開講時期に関わらず、すべての科目のシラバスを、開講前年度の3月1日に公開しており、Web上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・シラバスには、授業形態、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業形態、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。	
授業計画書の公表方法	・シラバス https://syllabus.kwansei.ac.jp/uniasv2/UnSS0LoginControlFree
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
・成績評価項目は、「定期試験」、「定期レポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「論文」、「授業外学修課題」、「プレゼンテーション・発表」、「実技、実験」、「授業への参加度（自発性、積極性、主体性等）」「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。また、成績評価項目は入力必須項目となっており、シラバス公開時に必ず設定されている。 ・成績評価方法については、学期開始約1ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。 ・学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績評価に疑義がある場合は、授業担当者に照会することができる。	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPA制度を採用し、以下の基準でGPを付与することを学生に公表している。併せて、GPAの算定対象となる科目、履修中止制度についても公表している。GPAは学期ごと、年度ごと、通算で算出され、成績発表時に発表される。

■GPA算出式

$$[(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目の評価のGP})] \text{の総和} / (\text{履修登録した単位数}) \text{の総和}$$

■2019年度以降入学生：

100～90点又はS 評価の場合のGPは4.0

89～85点又はA+評価の場合のGPは3.5

84～80点又はA 評価の場合のGPは3.0

79～75点又はB+評価の場合のGPは2.5

74～70点又はB 評価の場合のGPは2.0

69～65点又はC+評価の場合のGPは1.5

64～60点又はC 評価の場合のGPは1.0

59～0点又はF 評価の場合のGPは0

■2018年度以前入学生：

100～90点又はS評価の場合のGPは4

89～80点又はA評価の場合のGPは3

79～70点又はB評価の場合のGPは2

69～60点又はC評価の場合のGPは1

59～0点又はF評価の場合のGPは0

客観的な指標の
算出方法の公表方法

- ・履修心得（年度開始前に全学生に配布される冊子）
- ・大学ポータルサイト（要ログイン）

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

- ・すべての学生が卒業時に学部の特徴なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。
- ・学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。
- ・卒業の要件について、各学部の履修心得・教育課程表に記載し、学生に周知している。
- ・授業期間および定期試験期間終了後から、成績発表・成績調査依頼期間を経て、卒業者発表までのスケジュールについて、各学部の履修心得・大学のポータルサイト等で学生に周知している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	・履修心得（年度開始前に全学生に配布される冊子） ・ホームページ (1)Kwansei コンピテンシー https://www.kwansei.ac.jp/about/kg_competencies (2)ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー https://www.kwansei.ac.jp/about/dca_policy/
------------------------------	--

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	関西学院大学
設置者名	学校法人関西学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	左記の財務諸表等はすべて「事業報告書」の中にまとめて掲載し、ホームページで公表している。 https://ef.kwansei.ac.jp/disclosure/report
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告(書)	

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:Kwansei Grand Challenge 2039 中期総合経営計画 対象年度:2018~2027)	
公表方法: https://kgc2039.jp/	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kwansei.ac.jp/about/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kwansei.ac.jp/about/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 神学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/philosophy/) 神学部は、「キリスト教の伝道に従事すべく選ばれた者を鍛錬する」の理念を基に、神学研究の発展に努め、また伝道者の育成ならびに広くキリスト教の思想および文化の理解を求めて、キリスト教神学の基礎と専門領域双方において教育を行う。その目標とするところは、人間を自然と社会との関わりにおいて考察し、そこにある問題を探り出し、キリストの福音に照らして今日における生の意味やその規範を模索しつつ、そこで見出したものを他者に伝え、社会に仕える人材を育成することにある。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/philosophy/policy/) (概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において神学部のディプロマ・ポリシー (DP) を以下のとおり定める。 1. 神学を学ぶための基礎力を修得している 2. 大学生に相応しい基礎力を修得している 3. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践の基本的知識を修得している 4. キリスト教文化、諸宗教について基本的知識を修得している 5. 大学生に相応しいコミュニケーションができる 6. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者としての知識を修得している 7. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい技能をもっている 8. 伝道者コースの学生はキリスト教伝道者に相応しい関心をもっている 9. 旧約・新約聖書、キリスト教の歴史、教理、実践、思想・文化、諸宗教のいずれかについて発展的知識を修得している 10. キリスト教神学についてのレポートあるいは論文を執筆することができる 11. キリスト教を広く様々な問題のなかで捉える関心、問題意識をもっている 12. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心をもっている 13. 現代社会の中でキリスト教に関して専門的知識を基に必要な技能を用いて積極的に考えることができる
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/philosophy/policy/) (概要) 1. 大学生に相応した基礎力の修得 (キリスト教教育科目群／言語教育科目群／基礎教育科目群) 2. キリスト教神学を学ぶための基礎的知識、技能、関心の修得 (専門基礎科目群) 3. キリスト教伝道者としての基礎力の修得 (キリスト教伝道者コース) 4. キリスト教神学に関する発展的知識、技能、関心の修得 (専門専攻科目群) 5. "Mastery for Service"を実践するための基礎的・発展的知識、技能の修得 6. 神学の領域を超えて汎用的な知識、技能、関心の修得 (自由履修科目群)
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/philosophy/policy/)

(概要) 神学部では、キリスト教が人類の歴史の中で生み出してきた思想や文化的財などについて専門領域ならびに学際的領域での学びを深め、その精神に基づいて社会に奉仕することができるよう、教育することを目標としている。くわえて高等学校までの基礎的な学習を土台にして、ボランティアや課外活動、あるいは社会人としての経験などから培った多様な能力をもつ者を幅広く受け入れている。そのため、以下の項目を募集方針の要素としている。 神学部に入學を望む者に期待することは、 1. キリスト教の生み出した思想、文化的財などの学際的な領域に興味をもっている 2. キリスト教について幅広く関心をもっている 3. 世界の歴史や日本の歴史について知識がある 4. 日本語、英語について一定水準の能力がある 5. 「倫理」あるいは「数学」あるいは「地理」について知識がある キリスト教伝道者コースに入學を許可される者は、 6. 将来クリスチャンワーカーを含めた伝道者となる意志をもっている 7. バプテスマ（洗礼）を受けた者である 8. 聖書、キリスト教について一定量の知識がある 9. 聖書、キリスト教について調べることができる
--

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/philosophy/)
(概要) 人間存在とその営為を、さまざまな方向からの検討を通じて明らかにする専門的能力を涵養するとともに、豊かな人間性を育み現代社会を理解するための幅広い視点と教養の獲得を重視して教育研究を進める。それにより、包括的で幅広い教養と高度で専門的な知識をあわせ持ち、深い洞察力を身につけた人間を育成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/philosophy/policy/)
(概要) 学士学位の取得にあたって学生に求められるのは、 ①人文科学の基礎的知識のもとに、人間存在とその営為について主体的に課題を発見し、適切に問題を設定する能力と、幅広い観点から対象を洞察し、合理的に解決する能力を身につけていること ②広範で多様な人文科学の学問領域に触れることを通じて、広い視野と均整のとれた柔軟な思考能力を身につけていること である。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/philosophy/policy/)
(概要) 1. 基礎・基本を重視した教育を通じて、主体的に課題を設定し、これを解決できる能力を養成するとともに、人文的素養に立脚した真の知性と品格をそなえた人間の育成を目指す。 2. 広範で多様な学問領域にふれることを通じて、均整のとれた柔軟な思考能力を涵養するとともに、文化全体を見渡す視野と方法を身につけ、創造的に考え自ら行動することのできる能力を養成する。 3. 豊かな人間性と幅広い教養を持ち、よき市民として地域社会や国家はもとより、国際社会においても重要な貢献をなし得る能力を養成する。同様に、よき社会人、職業人とし

て、各界に積極的な貢献をなし得る能力を養成する。 4. 高度専門職及び研究職の養成（大学院教育）を視野に入れながら、その基盤となる強固な学問的知識及び技能の獲得を達成し、学問的な立場から社会に貢献できる能力を養成する。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_humanities/philosophy/policy/）
（概要） 文学部は、建学の精神に則ったキリスト教主義教育を土台とする人文学の修得を通じて、全人的陶冶を行うことを教育理念としている。多様な領域にまたがる人文学の教育・研究のために、文学部は文化歴史学科、総合心理科学学科、文学言語学科の3学科で構成され、さらに11の専修に区分されているが、どの専修に所属しても学生それぞれの関心に従って基礎的な科目群から専門的な科目群まで幅広く履修できるよう柔軟なカリキュラムを組んでいる。また最終的な到達目標として卒業論文の作成が必修とされている。 4年間の勉学を通して、主体的に学び、自ら問題を見出し追究していく姿勢が重要である。高等学校の学習においても、基本的な科目全般にわたって基礎学力を充実させるとともに、幅広く客観的な視野と、先入観や画一的なものの見方に囚われない柔軟な思考力、さらには自らが興味関心を持ったテーマに対して粘り強く取り組んでいく姿勢を培っておくことが求められる。このような総合的な知的基盤を備え、かつ自らの見出した研究課題に積極的に取り組んでいける資質に富んだ者を、一般入学試験・各種入学試験それぞれの特徴を生かして、本学部の学生として受け入れることを基本方針としている。

学部等名 社会学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/philosophy/）
（概要） 社会学部は、社会学を中心とした学術研究を推進するとともに、学士課程教育を通して、自由で自律的な態度、よりよい社会の実現に貢献しようとする意欲、幅広くかつ系統的な社会学的知識と思考力、実践的な汎用的技能を身につけ、グローバル化した現代社会で活躍できる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/philosophy/policy/）
（概要） 1. 【態度・関心】 建学の精神にもとづく態度と社会・文化・人間への関心 ① 自らを律する主体としての強さを身につけ、それにもとづいて、他者と協力してよりよい関係や社会を築くために貢献していこうとする基本的な態度を身につけている（スクールモットーである“Mastery for Service”の態度）。 ② 現代社会やそこに生きる人間、そして異なる文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていこうとする意欲をもっている。 2. 【知識・思考】 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識と思考力 ① 社会学を核とする幅広くかつ系統的な知識を身につけ、現代社会やそこに生きる人間が抱える問題と解決に向けての実践について理解するとともに、グローバル化にともなう社会現象や諸問題についての知識を身につけている。 ② 社会学的な視点と思考力（社会学的想像力）を身につけ、論理的かつ実証的な思考や判断ができる。 ③ 社会調査の実践的な意義を理解し、社会調査についての基本的な知識を身につけている。 3. 【技能・表現】 実践的なジェネリック・スキル（汎用的技能） ① 生涯にわたって学習するための技能（ICTを用いた情報収集・分析・評価の能力、論理的・批判的な思考能力、数量的スキル、表現・伝達能力など）を身につけている。 ② 日本語および一つ以上の外国語によって、的確に理解（読み・聞き）し、わかりやすく

表現（書き・話す）するためのコミュニケーション・スキルを身につけている。 ③ 社会調査についての基礎的な技能を身につけている。 4. 【統合的能力】 総合的学習成果としての課題解決能力 上記1～3の学習成果を総合的に活用して、自ら課題を発見し、その課題を社会的に分析・解決することができる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/philosophy/policy/） （概要） 社会学部は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）にもとづいて、A群科目（必修科目）、B群科目（選択必修科目）およびC群科目（自由選択科目）を系統的に配置する。 A群科目（必修科目） 「キリスト教科目」（キリスト教学A・B） 「言語教育科目（必修）」 「入門科目」（社会学入門A・B、社会調査入門A・B） 「演習科目」（基礎演習A・B、インターメディアイト演習、研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、卒業論文） B群科目（選択必修科目） 「リサーチ・メソッド科目」「専攻分野科目」（現代社会学、データ社会学、フィールド社会学、フィールド文化学、メディア・コミュニケーション学、社会心理学の6専攻分野） C群科目（自由選択科目） 学生が各自の必要と興味に応じて自由に履修し、学習成果を補完あるいは拡張するための科目
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_sociology/philosophy/policy/） （概要） 社会学部は、学士課程教育で培っていかうとする能力に応じて、以下の条件を満たしている者に広く門戸を開いている。 【態度・関心】 ① 関西学院大学および社会学部の教育理念・教育内容を理解し、それに基づいて人間的に成長しようとする意志をもっていること。 ② 社会・文化・人間について、そして現代社会のさまざまな現象や問題について基本的な関心を持ち、社会学を学ぶ意欲と見通しをもっていること。 【知識・思考】 ① 高等学校で学ぶ基本的学科目について、優れた学力水準にあること。社会学を学ぶうえで、その基礎となる、歴史（日本史・世界史）、地理、政治・経済、現代社会に関する基本的な知識を身につけていること。 ② 論理的かつ実証的な思考や判断の基礎となる、日本語（国語）、数学についても、十分な能力を身につけていること。 【技能・表現】 ① 自分で情報を集め、自分で考え、それを表現するという経験をもっていること。 ② 相手の考えを理解するとともに、自分の考えを表現するために必要な、日本語および英語（あるいは他の外国語）の基礎的な運用能力を身につけていること。

学部等名 法学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/philosophy/）

(概要) 法学部は、キリスト教主義教育と「ソーシャル・アプローチ」の理念（「民間における自由の精神」、「広く深い社会的視野と教養」、「社会貢献（奉仕）の精神」の3つ）のもと、良識を基礎に幅広い社会的視野から論理的に物事を考察し、社会現象について深く洞察する力を育み、これをもって Mastery for Service を体現する世界市民を育むことを目的としている。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/philosophy/policy/)
(概要) 法学部は、本学部設立以来の伝統である市民社会における自由な精神に則り、広く深い社会的視野と教養、及び社会貢献（奉仕）の精神の視点を重視するという「ソーシャル・アプローチ」の理念に基づき、法学・政治学の教育をつうじ社会に広く貢献できる人材を育成することを目的としてディプロマ・ポリシーを定める。所定の年限在学し所定の単位を修得し、下記の知識や能力あるいは技能などを習得したと認められる本学部生に、学士号を授与する。 ＜法律学科＞ 1. 〔関心・意欲〕 法学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2. 〔知識・理解〕 広い社会的視野と教養を有し、法学の専門的知識を修得している。 3. 〔技能・表現〕 グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4. 〔思考・判断〕 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、法的思考（リーガル・マインド）を身につけている。 ＜政治学科＞ 1. 〔関心・意欲〕 政治学の視座から市民社会における自由の精神や基本的人権の重要性を理解し、社会に貢献しようとする関心と意欲を有する。 2. 〔知識・理解〕 広い社会的視野と教養を有し、政治学の専門的知識を修得している。 3. 〔技能・表現〕 グローバル化する市民生活に不可欠な実践的学習能力とスキルおよびコミュニケーション能力を有する。 4. 〔思考・判断〕 課題発見・解決のための総合的思考力と判断力とともに、市民社会的思考（シヴィック・マインド）を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/philosophy/policy/)
(概要) 法学部は、ディプロマ・ポリシーに明記されている人材養成目標を達成するために、下記の重点項目を含むカリキュラムを編成し、これを実施する。 ＜法律学科＞ 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 法律学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することができる科目

5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目 <政治学科> 1. 市民社会における自由な精神、人権や社会奉仕の重要性を主体的に深く理解するとともに、広い学際的、国際的な視野を深めることのできる科目 2. 政治学の専門的知識をコースごとに系統的に修得する科目 3. 複数の言語によるコミュニケーション能力を習得し、多文化理解を促すことを目的とする科目 4. 基礎的な学修技能を修得することができる科目 5. 以上の科目により習得した知識や能力を活用して課題発見や解決策を考察・討議する、主に少人数での双方向的な演習科目
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_law/philosophy/policy/)
(概要) 法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成する 法学部は、ソーシャルアプローチの理念に基づき、広く深い社会的視野と教養に根ざした法学・政治学の研究と教育を通じ、法と政治の基礎にある自由と人権、正義を重んじ、社会に奉仕する精神に富んだ有能にして心温かい市民を育成することを目的としている。 この目的を達成するために、 (1) 科学的な思考方法の習得 (2) 広範な知識と社会的視野の獲得 (3) 正しい価値観と豊かな人間性の形成 (4) 人権感覚の陶冶 (5) 国際的・地球的な視野の確保 という教育目標を定め、 ① 学生の多様な進路希望の実現に資する、高い社会的評価の得られる力の習得 ② 少人数教育による学生間・教員学生間での刺激に満ちた人格形成 という実施目標を置いている。 法学部は、こうした目的と目標に十分に答えることのできる学生として、基本とされる教科を着実に学習しているだけでなく、時代や場所を問わず、様々に生起する社会問題や社会現象に幅広く関心の持てる学生を受け入れることを方針としている。

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/philosophy/)
(概要) 経済学部の教育目的は「倫理観と判断力を持った実践力のある人材」の育成である。経済学の専門的知識や現実経済の背景にあるさまざまな文化や伝達手段を身につけることを通じて社会に貢献し、その社会への貢献を通じて自分自身をも磨ける人間を育てる。学生の大半が民間企業へ就職するという状況の中で、経済学というツールを使って経済現象を的確に捉え分析し新聞の経済記事等を自在に読める人材、企業に求められる経済学という基盤を持った実践力を有した人材の育成を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/philosophy/policy/)

(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、経済学部の DP を以下のとおり定める。 【関心・意欲】 ・世界の様々な地域の人々や文化への共感する力を持っている。 ・他者と協力し、社会に貢献しようという意欲を持っている。 【知識・理解】 ・経済学の基本的な概念と理論的・歴史的な経済学的思考力を身につけている。 ・日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけている。 【技能・表現】 ・基本的な情報処理技術に基づいた、経済データ分析能力を備えている。 ・日本語および1つ以上の外国語の修得に基づいた、コミュニケーション能力を備えている。 【判断・問題解決】 ・経済学的思考力に基づいた、現実の社会や経済の事象についての判断能力を備えている。 ・現実の社会や経済のなかで課題を発見し、解決する能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/philosophy/policy/)
(概要) 経済学部は、学士（経済学）を授与するにあたり、学生に求める【関心・意欲】、【知識・理解】、【技能・表現】、【判断・問題解決】を育むため、下記のカリキュラムを編成し、これを実施する。 【関心・意欲】 高等学校までの中等教育から大学からの高等教育へ繋ぐ導入教育科目、健康な心身を育み世界の様々な地域の人々や文化を学びそれへの共感を醸成するための言語教育科目を配置する。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、および、経済学以外の様々な学問分野の基礎を学ぶ他学部開設専門教育科目から構成される総合教育科目を配置する。 【知識・理解】 日本や世界の経済事情、歴史、言語や文化、そして宗教に関する基本的な知識を身につけるための言語教育科目。また、本学のキリスト教主義の礎となるキリスト教科目、基盤・学際科目、他学部開設専門教育科目を配置する。これらの幅広い基礎学力の上に、経済学の基本的な概念や経済・社会の歴史的視点を理解し、経済学的思考力を身につけるため、基礎、標準、応用へと経済学諸分野を発展的に学び、深めるために体系的に配置された「専門導入科目」「専門基礎科目」「専門科目」を配置し、学生に体系的履修を促すための履修モデルを示す。 【技能・表現】 初年次に学部生全員が履修する少人数の経済学入門、経済学に必要な基礎的な数学、情報処理に関連する科目、母国語・外国語によるコミュニケーション能力を育む言語教育科目を配置し、それらを基盤として、より高度な経済学を段階的に習得すべく、プレ演習、専門演習、卒業研究演習を配置する。 【判断・問題解決】 経済学の専門的知識・理解を相互に関連付け考える力を涵養するための少人数による専門演習、卒業研究演習を配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_economics/philosophy/policy/)

(概要) わが国を含め世界の政治・経済情勢は大きな変化の時代を迎えている。その一つに、貧困や環境の問題などが挙げられるが、その根本には経済問題があるのは言うまでもない。今の時代に大学で経済学を学ぶ意義はきわめて大きいと言える。同時に、社会や世界の多様な文化や考え方の違いを認識することが大切だと言える。まさに、激動の世界において活躍できる「世界市民」に求められる資質は、経済学の専門知識だけでなく幅の広い多様な知識としっかりとした価値観を持つことである。

学部等名 商学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/)
(概要) 高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得、歴史的洞察力の涵養、言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化を具体的な教育目的として掲げる。 また、理論と実践との関連性を重視したカリキュラムの編成、さらに産業界との密接な連携の中で常に最新かつ高度な情報を提供することにより、ビジネスの第一線で活躍しうる人材、会計・税務など商学関連分野の専門職者を輩出することを目指している。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/policy/)
(概要) 商学部は、「隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛える」という内容を示す関西学院のスクールモットー“Mastery for Service (奉仕のための練達)”のもと、次の能力等を有する「真に創造的な能力を有するビジネスパーソンの育成 (Fostering Creative Minds for Business)」を教育理念としている。 基本的意識と姿勢 ・知識を修得する意欲と、それを社会への奉仕に生かそうとする意識と積極的な姿勢を有する。 基本的思考と判断 ・現代社会のなかで企業などの経済主体が果たす役割、その行動原理と仕組み、そこで用いられる政策や管理方法とそれらが社会に及ぼす影響、経済主体の社会的責任・倫理の重要性などを体系的に把握・分析・理解する能力を有する。 ・問題を発見し、問題の本質を問い、論理的考察と多面的総合的視点から社会的現象を的確に判断し行動する能力を有する。 知識と技能 ・商学についての基礎知識と専門知識、総合的教養を修得し、高いコミュニケーション能力を有し、多元的社会のなかで機能や文化を異にする他の多くの主体との共生を図ろうとする意識と積極的な姿勢を有する。 このような教育理念に基づき、本学部は、学則に定められた期間在籍し、卒業に必要な単位数を修得した者に、学士（商学）を授与する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/policy/)
(概要) 商学部は、キリスト教主義による人間愛の精神を涵養し、一般教養による人格形成を図り、専門知識を身につけ国際化時代・情報化時代である今日の社会に貢献できるビジネスパーソンを養成するため、カリキュラムの編成に当たって、以下①～⑤の5本の柱を立てる。 ①ビジネスパーソンとしての一般教養の修得 専門知識に偏らない一般教養やビジネスの背景的知識を提供する。 ②ビジネスパーソンとしてのミニマム・コンピテンスの修得

ビジネス全般に関する基礎的知識を体系的に提供する。 ③ビジネスパーソンとしての高度な専門知識の修得 ビジネスの各分野におけるスペシャリストとして意思決定能力・分析能力等を養うため、経営、会計、マーケティング、ファイナンス、ビジネス情報、国際ビジネスの6コースを設け、各分野の高度な専門的知識を体系的に提供する。 ④ビジネスパーソンとしてのコミュニケーション能力の修得 学生・教員間の学問的・人格的な接触を通じて学習する演習型科目を提供する。 ⑤ビジネスパーソンとしての外国語能力の修得 外国語をツールとしてビジネスを学習する機会を提供する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_ba/philosophy/policy/)
(概要) 商学部教育理念は、“Mastery for Service (奉仕のための練達)”というスクールモットーの精神を踏まえて、営利、非営利を問わず経済活動に関わるすべての主体がおかれて いる現実と向かうべき方向に対する認識を深めつつ、同時に広範な人間生活や環境との関わりの中で、その役割を見極める能力と主体性をもった人材、すなわち「真に創造的な能力を有するビジネスパーソン」を育成することにある。本学部は、この教育理念に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたいと考えている。

学部等名 理工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/about/index.php?id=22)
(概要) 1. 自然科学・科学技術の幅広い分野にわたり、基礎的研究を中心におきながら応用も視野に入れ、それぞれの分野が相互に緊密な連携を保ちながら常に先端的でレベルの高い研究を行う。 2. しっかりとした自然科学の基礎知識と能力を身につけ、基礎を応用に繋げていくことが出来る柔軟な思考力を養い、未知の問題を発見していく能力と、その未知の問題に果敢に挑戦し、解決していくことが出来る能力に優れた、創造性に溢れた人材を育成する。 3. 自然科学・科学技術の知識と能力とともに、幅広い教養を養い、キリスト教主義教育で培われた豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育てる。 4. 社会との強い繋がりを絶えず念頭に置き、自然科学を通して社会に大きなインパクトを与え、また、その技術的応用を通して、人類の進歩に寄与することが出来る教育と研究ならびに人材の育成を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education4/)
(概要) 自然科学の基本原理とその応用について教育と研究を行い、自然科学・科学技術と建学の精神であるキリスト教主義を基盤において人類の進歩に貢献する理工学部の理念の下、理工学部の学生が卒業時に身につけておくべき知識・能力を次のとおり定める。 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://sci-tech.ksc.kwansei.ac.jp/ja/modules/education4/)

(概要) <数理科学科> 数理科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、コンピュータ科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。 <物理学科> 物理学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目(卒業研究科目、コア科目、実験科目、選択科目)、数学系科目、専門選択科目にて構成する。 <先進エネルギーナノ工学科> 先進エネルギーナノ工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目<数学系、物理系、化学系>、実験科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。 <化学科> 化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目)、専門選択科目にて構成する。 <環境・応用化学科> 環境・応用化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(数学・物理科目、地学・生命・情報科目、基礎科目、発展科目)、専門選択科目にて構成する。 <生命科学科> 生命科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目)、専門選択科目にて構成する。 <生命医化学科> 生命医化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(基礎科目、発展科目、先端科目、生命科学科目)、専門選択科目にて構成する。 <情報科学科> 情報科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(情報科学実習科目、人間システム工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、人間システム工学系科目)、専門選択科目にて構成する。 <人間システム工学科> 人間システム工学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、選択必修科目(人間システム工学実習・実験科目、情報科学実習科目、基礎科目、発展科目、情報科学系科目)、専門選択科目にて構成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：)
(概要) ※令和3年度より募集停止

学部等名 総合政策学部

教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/philosophy/)
(概要) 総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決及び政策立案能力を持った人材を養成することを目的としている。そのために、総合政策学部はヒューマン・エコロジーを視座とし、政治学、経済学、社会学、経営学、法学、工学、理学、言語、文化、思想といった個別的学問領域を横断的かつ重層的に構造化した教育課程を編成して、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとした総合的かつ専門的な教育研究を行う。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/philosophy/policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において総合政策学部の学位授与方針(D P)を以下のとおり定めている。 ＜総合政策学科＞ ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。 ・フィールドワークをととして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力））。 ＜メディア情報学科＞ ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。 ・フィールドワークをととして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。 ＜都市政策学科＞ ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。 ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。 ・フィールドワークをととして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。 ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。 ＜国際政策学科＞ ・「自然と人間の共生ならびに人間と人間の共生」をめざし、グローバルな視点から現代の地球社会の問題を発見する能力（問題発見能力）を習得し、さらに学問的な態度でこれらの問題を解決できる能力（問題解決能力）。

- ・自然科学・社会科学等の複数の学問分野にまたがる基礎的な知識（学際性）と問題を科学的に分析する力を身につけることで、社会や自然における複合的で複雑な諸問題を理解し、具体的な政策を構想できる能力（総合力）。
- ・フィールドワークをととして現実の社会において人々と共に実際の諸問題を分析発見し（実学性）、さらにそれらを克服する政策を構想し実践できる能力（実践力）。
- ・政策実現にあたって必要となる様々な文化や価値観を理解し交流できる能力（コミュニケーション力）と自己の考えを発信できる能力（プレゼンテーション力）。

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/philosophy/policy/）

（概要）

<総合政策学科>

総合政策学科は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」についての基本的理解を深め、技術的環境の変化とマクロな社会変化に対応できる総合的な視野、問題解決能力、政策立案能力を持つとともに、「Think Globally. Act Locally.」をモットーとして地球規模で自然・文化・社会環境を維持発展させ、国際社会に貢献できる人材を養成する。そのために、「環境政策フィールド」、「公共政策フィールド」、「言語文化政策フィールド」という3つの専攻フィールドを設け、総合的かつ専門的な教育研究を行う。

<メディア情報学科>

メディア情報学科は、デジタル・ネットワークを基盤とする豊かな社会を築くため、日々進歩する情報通信技術と情報メディアの本質を理解した上で、それらのあり方についての問題を人間重視の視点から先見性を持って見出す。そこで発見された問題を、フィールド調査や数理的分析などにより考察し、次に問題解決の政策案を作成し、さらにそれらを映像表現を含む多様なメディアを活用したコンテンツとして社会に発信することができる人材を育成する。

<都市政策学科>

都市政策学科は、地方都市に活力あふれる新たなコミュニティを創造していくための都市政策と都市経営に必要な地方産業の活性化策に関する教育研究を行う。都市政策については行財政に関する基礎知識とデータサイエンススキルを学び、実際の都市経営や地域運営に必要な能力を身につけた人材の育成、また、地方産業活性化の中心となる地方発ベンチャー企業の経営に必要な能力を身につけた人材を育成する。

<国際政策学科>

国際政策学科は、国連が掲げる平和構築、国際発展と開発、人権の擁護といった国際社会の諸課題に対して、総合的かつ専門的な見地から政策を構想・立案し、実践的な問題解決能力を備えた人材を養成する。そのために、「国際社会における平和構築」、「国際発展と開発」、「国際人権レジームの拡大と擁護」という3つの政策課題に関して理論と実践の双方の視点から総合的かつ専門的な教育研究を行う。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_policy/philosophy/policy/）

（概要）

総合政策学部が教育研究の目的としている、現代社会の諸問題に的確に対応できる人材を養成するため、必要となる基礎的学力を有することを前提としつつ、資質の異なる多様な学生を受け入れることにより、相互に刺激しあい学びあう教育研究環境の場を整えている。入学に必要な基礎的学力としては、文理の幅広い学びとともに、入学後の教育に対応できる一定の外国語運用能力を有していることが望まれる。また学生の資質としては、特に社会への幅広い関心と考える力、主体性をもって多様な人々と協働し学ぶことができることが求められる。学生は入学後、入学前の基礎的知識のうえに本学部の理念である共生への理解を深め、各自が関心をもつ専門領域において必要となる能力を身につけるとともに、異なる専門領域についても幅広い学びを探究することが期待される。

学部等名 人間福祉学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/philosophy/)
(概要) 人間福祉学部は、永年の伝統を有する「関学社会福祉」の教育研究を継承、発展させつつ、さらにはスポーツ科学・健康科学教育研究及び社会経済研究の資源を活かしながら、それらと有機的な連携をより一層強めることによって様々な社会的要請に応えることを目的として設立された。本学部は「人間 (humans)」とその生活環境としての「社会 (society)」、そしてその両者の交渉関連として「交互作用 (transactions)」に関わる諸課題に対してソリューションを提供することによって、質の高い生活と社会の実現 (Improving Quality of Human Life and Society) に貢献する人材の輩出を目指す。
卒業の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/philosophy/policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、人間福祉学部の DP を以下のとおり定めている。 <社会福祉学科> 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会福祉学科の学生は、社会福祉学に関する専門的知識を身につけ、社会福祉課題の解決に関与し貢献できる <社会起業学科> 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 社会起業学科の学生は、社会起業に関する専門的知識を身につけ、グローバルな市民社会の建設に関与し貢献できる <人間科学科> 1. 大学生にふさわしい基礎力を身につけている 2. 人間と社会とその交互作用に関する基本的知識を身につけている 3. 人間の生活課題を共感的に理解し、幅広い視野から実践的な解決法を考えることができる 4. 人間科学科の学生は、人間科学に関する専門的知識を身につけ、質の高い生活と社会の実現に貢献できる
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/philosophy/policy/)
(概要) 人間福祉学部では、ディプロマ・ポリシーにもとづいて以下の方針を設定し、カリキュラムを編成している。 <社会福祉学科> 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得 (キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目) 2. 社会福祉学に関する専門的知識・技能・態度の修得 (社会福祉学科専門教育科目) 3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得 (研究演習・卒業研究) 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得 (自由選択科目) <社会起業学科> 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得 (キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科

目) 2. 社会起業に関する専門的知識・技能・態度の修得（社会起業学科専門教育科目） 3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究） 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目） ＜人間科学科＞ 1. 大学生にふさわしい基礎力の修得（キリスト教教育科目／言語教育科目／教養教育科目） 2. 人間科学に関する専門的知識・技能・態度の修得（人間科学科専門教育科目） 3. 学科の研究課題に関する研究実施能力の修得（研究演習・卒業研究） 4. 学科の専門性と関連する領域における発展的な知識、技能、態度の修得（自由選択科目）
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_hws/philosophy/policy/）
（概要） 人間福祉学部の理念や教育プログラムにふさわしい生徒を確保するために、「高校において基本とするような科目全体について一定の学力を持っているか、特に言語的能力があり理解力や論述力に優れているか、あるいは特に数理的な能力に優れているか」との観点から試験を実施する。 なお、本学部の入学にあたって、社会福祉学科は、「社会福祉にかかわる分野での職業選択を希望しているかその分野に理解がある」ことが、社会起業学科は、「社会起業に関心があり、国内外での社会貢献活動をめざしているかそのような分野に理解がある」ことが、人間科学科は、「死生学・生命倫理学・悲嘆学などのところ（スピリチュアリティ）に関する学問に関心があるか、身体（スポーツ・健康）に関連する分野に関心があり、それぞれの分野での職業選択を希望しているかそれらの分野に理解がある」ことが求められる。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/philosophy/）
（概要） 教育学部では、「子ども理解」を教育研究の中核に据え、めざすべき「人を育てる人」の資質をより具体的に、「実践力」「教育力」「人間力」の三語で表し、これらを三位一体で形成することを学士課程上の目的とする。 「実践力」とは、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校をはじめ、一般社会も含めた幅広い保育・教育現場で、強い情熱、子どもと響きあえる身体性、一人ひとり異なる子どもへの愛情、優れた指導力を持って、実践できる資質である。 「教育力」とは、「教える専門家」になるために常に「学びの専門家」として研鑽を積み、学問的専門性を背景としてその分野の「知の意味」を様々な事象との連関において理解し、それを子どもたち一人ひとりに「おしえる（愛をしふ）」ことができる資質である。 「人間力」とは、国際的、歴史的な視野の広さ、状況の文脈を読み取る「思慮深さ」、人権意識、しなやかな批判精神、（異文化交流を含む）豊かなコミュニケーション能力、そしてこれらの教養に基づいた総合的な判断力を持ち、それを具体的行為につなげることができる資質である。 この3つの力を身につけることは、既存の教育現場に単に適応するというだけではなく、現場をより創造性豊かな環境にするための能力を培うことを意味しているが、これは、本学院のミッションステートメントにある「思いやりと高潔さをもった社会の変革」を志向するものでもある。
卒業の認定に関する方針 （公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/philosophy/policy/）

(概要) Kwansei コンピテンシー の獲得を念頭において、教育学部の DP を以下のとおり定める。 関心・意欲・態度 ①人の「弱さ」への深い自覚とともに、人生から問われて生きようとする「強さ」を身につけ、価値が不確実な状況下にあっても、他者と協働してよりよい人間関係や社会を創造するための基本的な態度を身につけている。 ②国際的、歴史的な視野の獲得と世界市民の自覚、そして Mastery for Service を体現する奉仕的なリーダーシップをもった「人を育てる人」として成長することに関心や意欲をもっている。 思考・判断 ①幅広い教養に基づいた多角的な視点と臨機応変な判断力をもっている。 ②専門的な知識(knowledge)や智慧(wisdom)を修得し、さらには他者との学び合いから思考をよりしなやかに、深く、発展させることができる。 ③一人ひとりの〈いのち〉の尊厳と人権意識とをもって行動することができる。 技能・表現 ①「子どもと共にある状況」からの呼びかけを聴きとり、課題を発見し、積極的に応答していく「感性(センス)」と「技(わざ)」を磨いている。 ②常に自らが「知」の探究者でありつつ、「知」を子どもたちに媒介できる表現や技能を磨くとともに、学びが困難な状況におかれた子どもたちを理解し、支援することができる。 ③日本語や外国語を用いて他者と円滑にコミュニケーションできる力を身に着けている。 知識・理解 ①子ども一人ひとりの〈いのち〉が唯一無二の贈与であることに深く思いをいたしながら、大人との関係性において常に生成している乳幼児・児童・生徒・障がいのある子どもを全人的に理解している。 ②乳幼児教育・学校教育・社会の幅広い教育活動や実践を理解し、「思いやりと高潔さをもった社会変革」への道筋を自分なりに展望することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/philosophy/policy/)
(概要) 教育学部は、学部教育目標を達成するために学位授与の方針(DP)に基づいた科目群を系統的に配置している。専門教育科目には、教員免許・保育士資格取得のために、免許・資格取得に必要な科目を配置している。 総合教育科目 「キリスト教科目」「言語教育科目」 専門教育科目 「共通専門教育科目」「教育学コア科目」「教育内容探究科目」「特別支援教育科目」「教育実践科目」
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_education/philosophy/policy/)
(概要) 教育学部は、「子ども理解」を基本的な教育理念として、学校教育及び保育の現場で活躍する「教育者」、広く社会で子どもを育てる活動にかかわり、またそうした活動を支援できる「教育者」を養成することを目的としている。そのため、「実践力」、「教育力」、「人間力」など「教育者」に求められる資質をさらに伸ばそうとする意志をもつ者を受け入れることを基本方針としている。
学部等名 国際学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/philosophy/)

(概要) 国際学部では、「国際性の涵養」という教育・研究上の理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/philosophy/policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、国際学部のディプロマ・ポリシーを以下の通り定める。 1. 国際事情に関する課題の理解力と分析力 世界の諸地域を人文・社会科学の様々な観点から理解し、分析できる。 2. 問題発見解決能力 主体的に問題を発見し、適切な方法に基づいて問題を解決できる。 3. 異文化理解・多文化共生能力 異文化に対する感受性をもち、多様な文化と共生できる。 4. 倫理的価値観 キリスト教主義に基づく「人間教育としての教養教育」を通じて「倫理的価値観」を体得している。 5. 言語コミュニケーション能力 外国語能力を生かし、積極的に発信できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/philosophy/policy/)
(概要) Kwansei コンピテンシーの獲得を念頭において、国際学部のカリキュラム・ポリシーを以下の通り定める。 国際学部の教育課程における科目区分は、キリスト教科目、言語教育科目、教養基礎科目、専門基礎科目、地域研究科目、研究演習科目、領域関連科目、自由履修科目とする。教養基礎科目は、入門的科目を第1類、基礎的科目を第2類、基礎演習科目を第3類とする。地域研究科目は、グローバル研究科目群、北米研究科目群、アジア研究科目群、ヨーロッパ研究科目群とする。 国際学部の学生は、英語、そして日本にとって物的・人的交流が盛んな主要地域で使われている中国語・朝鮮語を第1外国語として集中的に修得する。また、世界における様々な地域には、異なった文化、言語、社会、ガバナンス、経済、経営などが存在する。本学部における「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から学際的に理解し、分析できるようになることである。そのため、専門科目を大きく3つの領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に分け、国際社会、国際事情に関する幅広い知識の習得を行う。異文化理解と自国文化の理解は互いに不可欠である。そのため、本学部では日本の文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営などに関する諸科目も開講することで、自国文化の歴史的・同時代的考察を促す。加えて、英語の運用能力を高めるため、また外国人留学生に対応するため、英語で行う授業科目を、各科目区分に配置する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_is/philosophy/policy/)

(概要) 国際学部では、以下のようなアドミッション・ポリシーを示して学生を迎え入れる。 1. 人文・社会科学の多岐にわたる領域について幅広い関心と、一定の学力と論理的思考力を持ち、総合的な観点からそれらの課題に取り組もうとする意欲を持つ者 2. 主体的な関心に応じて、みずからの問題を発見し、その問題解決に実践的に取り組もうとする意欲を持つ者 3. グローバル化する社会の中で他者の想念や異文化に対する感性や、自己のありかたに相対的・反省的視点を持つことが期待される者 4. 関西学院に対して強い帰属意識を持ち、スクール・モットーである「Mastery for Service (奉仕のための練達)」という精神を体現しようとする意欲を持つ者 5. 海外生活経験を持つ生徒、留学生等、多様なバックグラウンドを有する者 6. 優れた外国語能力や、特定の分野において優れた学力・能力を持ち、入学後にそれを活かした教育成果が期待できる者

学部等名 理学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/philosophy/)
(概要) 数学、物理学（宇宙物理学を含む）、化学の各分野における基礎と専門の知識及び他者を理解し自ら発信する総合的なコミュニケーション能力、現代社会の抱える多様な課題の問題点を的確に見抜く能力を有し、自らの専門的な知識を生かすことにより従前には解決し得なかった課題の解決へと至る人材を養成することで社会に貢献すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/philosophy/policy/)
(概要) 理学部の理念の下、理学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 <数理科学科> 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 <物理・宇宙学科> 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 <化学科> 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/philosophy/policy/)
(概要) 各課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、各課程の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。 <数理科学科> 数理科学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、

基礎科目、コンピュータ科目、発展科目、専門選択科目にて構成する。 <物理・宇宙学科> 物理・宇宙学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は物理系科目、数学系科目、専門選択科目にて構成する。 <化学科> 化学科における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目、物理分析化学科目、有機無機化学科目、専門選択科目にて構成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_science/philosophy/policy/)
(概要) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、各学科の学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定める。 <数理科学科> ① 理学部及び数理科学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <物理・宇宙学科> ① 理学部及び物理・宇宙学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <化学科> ① 理学部及び化学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

学部等名 工学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/philosophy/)
(概要) 物質科学、電気電子工学、情報科学、人間・機械系の各専攻分野の基礎に根ざした深い知識と、それを複雑化・多様化する社会における課題解決に応用する能力を備えた学生を養成するとともに、現代社会が抱える諸問題の解決に結びつく研究成果を挙げることをもって、社会に貢献すること。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/philosophy/policy/)

(概要) 工学部の理念の下、工学部各課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 ＜物質工学課程＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ＜電気電子応用工学課程＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ＜情報工学課程＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ＜知能・機械工学課程＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/philosophy/policy/)
(概要) 各課程の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、各課程の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように定める。 ＜物質工学課程＞ 物質工学課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、基礎科目（数学系、物理系、化学系）、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。 ＜電気電子応用工学課程＞ 電気電子応用工学課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は、必修科目、基礎科目、実験科目、発展科目、先端科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。 ＜情報工学課程＞ 情報工学課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、情報工学実習科目、知能・機械工学実習・実験科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。 ＜知能・機械工学課程＞ 知能・機械工学課程における授業科目を、総合教育科目と専門教育科目に大別する。総合教育科目はキリスト教科目、英語教育科目、総合選択科目にて構成し、専門教育科目は必修科目、知能・機械工学実習・実験科目、情報工学実習科目、基礎科目、発展科目、専門選択科目、他領域科目にて構成する。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_engineering/philosophy/policy/)

(概要) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、各学科の学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定める。 <物質工学課程> ①工学部及び物質工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自立的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、物質工学に関わる専門的知識を中心にしつつ、極端な専門性に偏らず、幅広い自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <電気電子応用工学課程> ①工学部及び電気電子応用工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、電気エネルギーに関連した問題に強い関心を示し、本学の教育研究環境を積極的に活用して主体的に学び、近い将来、省電力パワーエレクトロニクスの分野で創造的役割を果たす人材へと成長していこうとする意志をもった学生 ②関西学院のスクールモットーである“Mastery for Service”への共感と、本課程における学びに対する強い関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲をもった学生 ③与えられた問題に対して、自分が有する知識を総合化して解を導く能力、あるいは導こうとして考え抜く力を有する学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <情報工学課程> ①工学部及び情報工学課程の目的及び養成する人物像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって人類の進歩に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、情報工学に関わる専門的知識を中心に、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 <知能・機械工学課程> ①工学部及び知能・機械工学課程の目的及び養成する人材像に賛同し、機械工学・人工知能技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ②理数系科目の十分な学力を有し、機械工学・人工知能技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点を意欲的に身につけようとする学生 ④日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

学部等名 生命環境学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/philosophy/)
(概要) 自然科学の基礎知識と生命科学分野、環境化学分野の専門知識を修得し、関連した科学技術の発展に資する課題解決力と高い倫理観、及びグローバル化に対応できる能力を備えた人材を養成することで、社会に貢献する。

卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/philosophy/policy/) (概要) 生命環境学部理念の下、生命環境学部各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を以下のとおり定める。 ＜生物科学科＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ＜生命医科学科＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ＜環境応用化学科＞ 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/philosophy/policy/) (概要) ＜生物科学科＞ 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（理学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 【総合教育科目】「キリスト教科目」「英語教育科目」「総合選択科目」 【専門教育科目】「必修科目」「基礎科目」「専門Ⅰ群科目」「専門Ⅱ群科目」「専門選択科目」 ＜生命医科学科＞ 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（生命医科学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 【総合教育科目】「キリスト教科目」「英語教育科目」「総合選択科目」 【専門教育科目】「必修科目」「基礎科目」「専門Ⅰ群科目」「専門Ⅱ群科目」「専門選択科目」 ＜環境応用化学科＞ 本学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、学士（工学）を授与するにあたり必要とされる知識・技能を体系的に修得できるよう教育課程を編成する。 【総合教育科目】「キリスト教科目」「英語教育科目」「総合選択科目」 【専門教育科目】「必修科目」「基礎科目（数学・物理系）」「基礎科目（地学・生命・情報系）」「専門Ⅰ群科目」「専門Ⅱ群科目」「専門選択科目」
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_bes/philosophy/policy/) (概要) 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえ、各学科の学生受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次のように定める。 ＜生物科学科＞ ① 生物科学科の各専攻分野と社会、文化、人間との関係に深い関心を抱き、各専攻分野の発展を通じて、再生・共生型社会の構築に貢献しようとする学生 ② 生物学に加え、数学、物理学、化学の体系的・構造的な理解に基づき、各専攻について

の知識や技能を多角的な視点をもって修得しようとする学生 ③ 自然科学に関する基礎知識や技能、また日本語及び英語の基礎学力を基に、コミュニケーション能力、論理的思考力、情報収集力、表現力の向上に努める学生 ④ 各専攻分野において現代社会における課題を見出し、健全な倫理観をもって課題を解決する能力を身につけようとする学生 ＜生命医科学科＞ ① 生命科学を生命医科学科の各専攻分野に応用し、ヒトの健康の維持や疾病の治療等、ライフイノベーションに貢献しようとする学生 ② 数学や物理学、化学等、基礎科目も含め、生命科学及び各専攻分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、多角的な視点と生命に関する健全な倫理観を意欲的に身につけようとする学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、その学力を基に文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生 ＜環境応用化学科＞ ① 物質と人間生活や地球環境との関わりに幅広い関心を抱き、化学的な視点からグリーンイノベーションに代表される地球環境問題の解決に貢献しようとする学生 ② 自然科学の基礎学力を十分に有し、地球環境化学・応用化学分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 修得した専門的知識・技能を応用に発展させる柔軟な思考力と知識を養い、新しい課題に取り組むことのできる能力と、成果を発信するコミュニケーション能力の修得に努めようとする学生 ④ 科学技術と地球環境との調和を重視した高い倫理観をもった学生
--

学部等名 建築学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/philosophy/) (概要) 魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン手法及びそれらを運営・管理するためのマネジメント手法の教育を通じて、建築学から現代社会における諸問題を解決する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/philosophy/policy/) (概要) 「Kwansei コンピテンシー」の獲得を念頭において、建築学部建築学科の学位授与の方針(DP)を以下のとおり定める。 1. 工学的知識と技術をベースにして、魅力的で持続可能な建築や都市空間をつくるための計画・デザイン技術及びそれらを運営・管理するためのマネジメント知識。 2. 建築空間、都市空間そして地域社会を連続的・一体的なものとして捉え、相互の関係性について深く理解し提案できる能力。 3. 語学力、コミュニケーション力はもとより日本やアジアの建築及び都市の特徴や文化について誇りをもって解説できる能力。 4. 最先端の建築技術やデザインはもとより地域性や歴史的文脈を踏まえて、人文科学・社会科学等、幅広い側面から取り組むことができる能力。 5. 人々の安全や財産に深く関わるとともに公共財としての側面をもつ建築に、専門家としての高度な倫理観をもって携わることができる能力。 6. 建築や都市デザインは多様な専門家及び住民との共同作業であることを理解し、一連のプロセスにおいて謙虚さと協調性を尊重しながらリーダーシップを発揮できる能力。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/philosophy/policy/)

(概要) 安全・快適で美しい建築及び都市空間の計画、設計、運営等に関する専門的知識と技術を有して、グローバルな視点で建築と都市の未来を創造する国際的人材を養成するため、総合教育科目と専門教育科目から構成される教育課程を通して、建築・都市デザイン分野の知識・技能を体系的に修得できるようにする。 具体的なカリキュラムの編成方針は以下のとおりである。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/s_architecture/philosophy/policy/)
(概要) 学位授与の方針（DP）及び教育課程の編成方針（CP）を踏まえ、学生受入れの方針（AP）を次のように定める。 ① 建築学部及び建築学科の目的及び養成する人材像に賛同し、自然科学・科学技術の発展を通じて、自律的な態度をもって社会・文化・人類の発展に貢献しようとする学生 ② 理数系科目の十分な学力を有し、自然科学・科学技術分野の体系的な知識・技能を高い意欲をもって修得しようとする学生 ③ 人文・社会系科目の基礎学力を有し、建築・都市が存立する社会・文化・歴史等について理解しようとする意欲をもつ学生 ④ 日本語及び英語の基礎学力を有し、論理的思考に基づいて、文章読解・作成、コミュニケーション能力の向上に努める学生

③ 教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	8 人	－					8 人
神学部	－	7 人	3 人	1 人	2 人	0 人	13 人
文学部	－	61 人	9 人	0 人	4 人	0 人	74 人
社会学部	－	39 人	5 人	1 人	5 人	0 人	50 人
法学部	－	44 人	8 人	0 人	2 人	0 人	54 人
経済学部	－	39 人	10 人	6 人	0 人	0 人	55 人
商学部	－	31 人	11 人	3 人	6 人	0 人	51 人
総合政策学部	－	34 人	7 人	15 人	1 人	0 人	57 人
人間福祉学部	－	29 人	8 人	1 人	6 人	0 人	44 人
教育学部	－	27 人	10 人	0 人	3 人	0 人	40 人
国際学部	－	27 人	4 人	14 人	0 人	0 人	45 人
理学部	－	29 人	4 人	5 人	6 人	0 人	44 人
工学部	－	32 人	6 人	6 人	0 人	0 人	44 人
生命環境学部	－	28 人	0 人	13 人	9 人	0 人	50 人
建築学部	－	9 人	6 人	2 人	0 人	0 人	17 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		1723 人					1723 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.kwansei.ac.jp/r_kenkyu/r_kenkyu_001518.html					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
https://www.kwansei.ac.jp/highedu/fd/report							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
神学部	30 人	38 人	126.7%	120 人	139 人	115.8%	0 人	0 人
文学部	770 人	830 人	107.8%	3080 人	3440 人	111.7%	0 人	0 人
社会学部	650 人	663 人	102.0%	2600 人	2701 人	103.9%	0 人	0 人
法学部	680 人	737 人	108.4%	2720 人	2945 人	108.3%	0 人	0 人
経済学部	680 人	758 人	111.5%	2720 人	3001 人	110.3%	0 人	0 人
商学部	650 人	655 人	100.8%	2600 人	2800 人	107.7%	0 人	0 人
理工学部	人	人	%	0 人	162 人	0%	0 人	0 人

総合政策学部	495 人	536 人	108.3%	1980 人	2139 人	108.0%	0 人	0 人
人間福祉学部	300 人	307 人	102.3%	1200 人	1292 人	107.7%	0 人	0 人
教育学部	350 人	372 人	106.3%	1410 人	1485 人	105.3%	5 人	4 人
国際学部	300 人	317 人	105.7%	1200 人	1288 人	107.3%	0 人	0 人
理学部	180 人	198 人	110.0%	720 人	723 人	100.4%	0 人	0 人
工学部	265 人	282 人	106.4%	1060 人	1100 人	103.8%	0 人	0 人
生命環境学部	228 人	261 人	114.5%	912 人	953 人	104.5%	0 人	0 人
建築学部	132 人	152 人	115.2%	528 人	569 人	107.8%	0 人	0 人
合計	5710 人	6106 人	106.9%	22850 人	24737 人	108.3%	5 人	4 人
(備考) 理工学部は令和3年度より募集停止。理工学部の在学生は、全員留年生。								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
神学部	23 人 (100%)	4 人 (17.4%)	19 人 (82.6%)	0 人 (0.0%)
文学部	755 人 (100%)	41 人 (5.4%)	643 人 (85.2%)	71 人 (9.4%)
社会学部	626 人 (100%)	11 人 (1.8%)	578 人 (92.3%)	37 人 (5.9%)
法学部	632 人 (100%)	29 人 (4.6%)	544 人 (86.1%)	59 人 (9.3%)
経済学部	668 人 (100%)	20 人 (3.0%)	609 人 (91.2%)	39 人 (5.8%)
商学部	627 人 (100%)	7 人 (1.1%)	582 人 (92.8%)	38 人 (6.1%)
理工学部	591 人 (100%)	277 人 (46.9%)	290 人 (49.1%)	24 人 (4.1%)
総合政策学部	554 人 (100%)	28 人 (5.1%)	485 人 (87.5%)	41 人 (7.4%)
人間福祉学部	294 人 (100%)	11 人 (3.7%)	265 人 (90.1%)	18 人 (6.1%)
教育学部	351 人 (100%)	5 人 (1.4%)	329 人 (93.7%)	17 人 (4.8%)
国際学部	294 人 (100%)	13 人 (4.4%)	257 人 (87.4%)	24 人 (8.2%)
合計	5415 人 (100%)	446 人 (8.2%)	4601 人 (85.0%)	368 人 (6.8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 進路・就職データ https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/career/				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考) 学生に関する情報 https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) ・ 前年 11 月頃から授業担当者にシラバス作成を依頼している。依頼に当たり、授業の魅力を分かり易く伝えるための書き方が記載された「シラバス作成の手引き」を全学的に配布している。 ・ 開講時期に関わらず、すべての科目のシラバスを、開講前年度の 3 月 1 日に公開しており、Web 上からアクセスすれば、誰でも閲覧することができる。 ・ シラバスには、授業形態、授業目的、到達目標、授業の概要・背景、授業方法、成績評価方法、授業計画、授業時間外学習の内容等が含まれており、授業形態、授業目的、到達目標、成績評価方法は日英併記となっている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) ・ 成績評価項目は、「定期試験」、「定期レポート」、「授業中試験」、「平常レポート」、「論文」、「授業外学修課題」、「プレゼンテーション・発表」、「実技、実験」、「授業への参加度（自発性、積極性、主体性等）」「その他」から選択式となっており、「その他」を選択した場合は、詳細の記入が必須となっている。また、成績評価項目は入力必須項目となっており、シラバス公開時に必ず設定されている。 ・ 成績評価方法については、学期開始約 1 ヶ月以降は追加・修正しないよう教員にアナウンスしており、シラバスの成績評価方法欄は編集できないようロックをかけている。 ・ 学修成果を厳格かつ適正に評価するために、「成績調査依頼期間」を設けており、学生は成績評価に疑義がある場合は、授業担当者に照会することができる。
(卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること) ・ すべての学生が卒業時に学部の区別なく共通に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwansei コンピテンシー」と定め、これを大学の教育に通底するものとして位置づけている。 ・ 学部ごとの特色に応じたディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）を定め、公表している。また、ディプロマ・ポリシーに基づいたカリキュラム・ポリシーを定め、学部の教育目標を達成するための教育課程を編成している。 ・ 卒業の要件について、各学部の履修心得・教育課程表に記載し、学生に周知している。 ・ 授業期間および定期試験期間終了後から、成績発表・成績調査依頼期間を経て、卒業発表までのスケジュールについて、各学部の履修心得等で学生に周知している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
神学部	—	124 単位	有・無	24 単位
文学部	文化歴史学科	124 単位		第 1 学年：22 単位 第 2 学年以降：24 単位
	総合心理科学科			
	文学言語学科			
社会学部	社会学科	124 単位		24 単位
法学部	法律学科	124 単位		24 単位
	政治学科			
経済学部	—	124 単位		24 単位
商学部	—	124 単位		■2017 年度以降入学生 24 単位 ■2016 年度以前入学生 第 1, 2 学年：22 単位 第 3, 4 学年：24 単位
理工学部	物理学科	128 単位		23～25 単位 ※学科や入学年度により異なる
	化学科			
	生命科学科			
	情報科学科			
	数理科学科			
	人間システム工学科			
	先進エネルギーナノ工学科			
	環境・応用化学科			
	生命医化学科			
総合政策学部	総合政策学科	128 単位		24 単位
	メディア情報学科			
	国際政策学科			
	都市政策学科			
人間福祉学部	社会福祉学科	124 単位		24 単位
	社会起業学科			
	人間科学科			
教育学部	教育学科	124 単位	24 単位	
国際学部	国際学科	124 単位	24 単位	
理学部	数理科学科	128 単位	春学期 25 単位 秋学期 24 単位	
	物理・宇宙学科		第 1 学年： 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 第 2 学年以降： 春学期 24 単位 秋学期 25 単位	
			化学科	春学期 25 単位 秋学期 24 単位
	工学部		物質工学課程	128 単位

			秋学期 24 単位 第 2 学年： 春学期 24 単位 秋学期 25 単位 第 1・3・4 学年： 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 第 2 学年： 春学期 24 単位 秋学期 25 単位 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 春学期 24 単位 秋学期 25 単位 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 春学期 24 単位 秋学期 25 単位 春学期 25 単位 秋学期 24 単位 春学期 25 単位 秋学期 24 単位
	電気電子応用工学課程		
	情報工学課程		
	知能・機械工学課程		
生命環境学部	生物科学科	128 単位	
	生命医科学科		
	環境応用化学科		
建築学部	建築学科	128 単位	
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法： ・履修心得（年度開始前に全学生に配布される冊子） ・大学ポータルサイト（要ログイン）	
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：	

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kwansei.ac.jp/about/disclosure/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料 (年間)	入学金	その他 (教育充実費・ 実験実習費・休 学中の在籍料)	備考（任意記載事項） その他には、教育充実費 と実験実習費、休学中の 在籍料※1 が含まれる。
神学部	—	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	
文学部	文化歴史学科（地理学 地域文化学専修を除 く）、文学言語学科	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	
	文化歴史学科（地理学 地域文化学専修）	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	367,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
		3	898,000 円	0 円	367,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
		4	898,000 円	0 円	367,000 円	その他の内、 35,000 円は実験実習費
	総合心理科学科	1	904,000 円	200,000 円	352,000 円	その他の内、 23,000 円は実験実習費
		2	1,070,000 円	0 円	415,000 円	その他の内、 52,000 円は実験実習費
		3	1,025,000 円	0 円	415,000 円	その他の内、 52,000 円は実験実習費
		4	1,025,000 円	0 円	415,000 円	その他の内、 52,000 円は実験実習費
社会学部	社会学科	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	※2
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	※2
法学部	法律学科 政治学科	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	
経済学部	—	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	
商学部	—	1	773,000 円	200,000 円	302,000 円	
		2	943,000 円	0 円	332,000 円	
		3	898,000 円	0 円	332,000 円	
		4	898,000 円	0 円	332,000 円	
総合政策学部	総合政策学科 国際政策学科	1	1,031,000 円	200,000 円	400,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		2	1,191,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		3	1,146,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		4	1,146,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3

	メディア情報学科	1	1,031,000 円	200,000 円	400,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		2	1,191,000 円	0 円	465,000 円	その他の内、 70,000 円は実験実習費※3
		3	1,146,000 円	0 円	465,000 円	その他の内、 70,000 円は実験実習費※3
		4	1,146,000 円	0 円	465,000 円	その他の内、 70,000 円は実験実習費※3
	都市政策学科	1	1,031,000 円	200,000 円	400,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		2	1,191,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		3	1,146,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
		4	1,146,000 円	0 円	440,000 円	その他の内、 45,000 円は実験実習費※3
人間福祉学部	社会福祉学科 社会起業学科	1	943,000 円	200,000 円	348,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		2	1,107,000 円	0 円	384,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		3	1,062,000 円	0 円	384,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		4	1,062,000 円	0 円	384,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
	人間科学科	1	943,000 円	200,000 円	348,000 円	その他の内、 10,000 円は実験実習費
		2	1,107,000 円	0 円	382,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費
		3	1,062,000 円	0 円	382,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費
		4	1,062,000 円	0 円	382,000 円	その他の内、 8,000 円は実験実習費
教育学部	教育学科	1	1,028,000 円	200,000 円	360,000 円	その他の内、 5,000 円は実験実習費 ※4
		2	1,188,000 円	0 円	400,000 円	その他の内、 5,000 円は実験実習費 ※4
		3	1,143,000 円	0 円	400,000 円	その他の内、 5,000 円は実験実習費 ※4
		4	1,143,000 円	0 円	400,000 円	その他の内、 5,000 円は実験実習費 ※4
国際学部	国際学科	1	1,028,000 円	200,000 円	355,000 円	
		2	1,188,000 円	0 円	395,000 円	
		3	1,143,000 円	0 円	395,000 円	
		4	1,143,000 円	0 円	395,000 円	
理学部	数理科学科	1	1,162,000 円	200,000 円	445,000 円	その他の内、 59,000 円は実験実習費
		2	1,318,000 円	0 円	489,000 円	その他の内、 59,000 円は実験実習費
		3	1,273,000 円	0 円	489,000 円	その他の内、 59,000 円は実験実習費
		4	1,273,000 円	0 円	489,000 円	その他の内、 59,000 円は実験実習費
	物理・宇宙学科 化学科	1	1,162,000 円	200,000 円	485,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		2	1,318,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		3	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		4	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
工学部	物質工学課程、電気電子 応用工学課程、情報 工学課程、知能・機械 工学課程	1	1,162,000 円	200,000 円	485,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		2	1,318,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		3	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		4	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費

生命環境学部	生物科学科、生命医科学科、環境応用化学科	1	1,162,000 円	200,000 円	485,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		2	1,318,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		3	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		4	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
建築学部	建築学科	1	1,162,000 円	200,000 円	485,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		2	1,318,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		3	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費
		4	1,273,000 円	0 円	529,000 円	その他の内、 99,000 円は実験実習費

- ※1 休学を許可されたものは休学在籍料（各学期 60,000 円、年額 120,000 円）を納入するものとします。
- ※2 社会学部において第3学年度以降に特定の授業科目を履修する者は、実験実習費（2024 年度年額 25,000 円）を別途徴収します。
- ※3 総合政策学部において特定のプログラムを履修する者は、実験実習費（2024 年度年額 15,000 円）を別途徴収します。
- ※4 教育学部教育学科教育科学コースに所属し、特定の授業科目を履修する者は、実験実習費（2024 年度年額 5,500 円）を別途徴収します。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 関西学院大学では学生一人ひとりが充実した大学生活を送れるよう、環境面（学生会館、キャンパス間のシャトルバス、トレーニングセンター等）や経済面（奨学金制度、寮・下宿、アルバイト）まで学生生活をあらゆる角度から支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 西宮上ケ原・西宮聖和・神戸三田・大阪梅田の各キャンパスにあるキャリアセンターでは、年間を通じてキャリア支援・就職支援・インターンシップなどのサポートプログラムを実施している。また、キャリア・アドバイザーが常駐し、進路選択や就職活動、資格取得などキャリアデザインに関するあらゆる相談に応えている。 ■キャリア支援について 「学生一人ひとりの長所を引き出し、強みを生かす」ことを基本的な考え方とし、入学時からのキャリア支援を行っている。就職活動は「就職活動のためのみの活動」ではなく、自らの人生を考える一つの機会ととらえ、活動が本格化する3年生・大学院1年生次に向けて十分な土台を築くことができるよう、1・2年生での低年次におけるキャリア教育を重視している。将来、社会に羽ばたき、スクールモットー“Mastery for Service”を実践し社会に貢献するための実力を身につけるため、まずは学生自身が大学生活を通して「強みと持ち味」を認識し、自らの軸を形成することができるように、4年間にわたるプログラムを提供している。 ■就職支援について 就職支援では「キャリアガイダンス」と「個人面談」を軸にサポートを行っている。3年生・大学院1年生次の春に実施する「第1回キャリアガイダンス」では、就職活動に関するさまざまな情報を掲載したオリジナルの「就職活動ハンドブック」を配付し、就職活動のスケジュールや、「いつ、どんな準備をすべきか」についてじっくり解説している。また近年、参加学生が年々増加しているインターンシップについても、応募方法や学内プログラムについて案内している。 キャリアガイダンスは年間を通じて複数回開催し、その時々テーマに即した情報提供を行っている。また、予約制の個人面談で、自己分析や面接対策、志望動機の考え方など、そ

れぞれの学生の活動状況にあわせたアドバイスを行う。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

関西学院大学では、保健館を設置し、在学生や教職員の健康生活を支援するとともに、定期健康診断、診療・応急手当などを行っている。診療のない時間帯も看護師は待機している。その他、障がいがある学生や困りごとがある学生の相談窓口の提供を目指す総合支援センターを設置している。総合支援センターには、障がいのある学生の修学支援を担うキャンパス自立支援室と、様々な学生のメンタルヘルスケアを担う学生支援相談室の2つの専門窓口があり、専門スタッフが在籍している。それぞれの窓口が連携をとりながら、さらに大学内外の関係部署・機関と協力しながら、全学体制での支援を行っている。

また、障がい学生が誰しも等しく教育を受けられる環境・体制を整え、個々のニーズにあった支援を提供するために、支援に関する基本方針・実施基準を定めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kwansei.ac.jp/kenkyu>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F128310108847
学校名（〇〇大学 等）	関西学院大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 関西学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		1642人	1696人	1696人
内 訳	第Ⅰ区分	1,007人	1,042人	
	第Ⅱ区分	412人	418人	
	第Ⅲ区分	223人	236人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				9人
合計（年間）				1,705人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	24人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	17人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	38人	人	人
計	41人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下）	- 人	人	人
G P A等が下位4分の1	208人	人	人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	209人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。